

雑、釋教
2733
(2925) ~
2791
(2985)

付記

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

初句索引

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

凡例

iii 凡例

本稿は、前著（『拾遺愚草、下（部類歌）、四季歌注釈』）に続く、賀、戀、雜（旅、述懐、無常、神祇、釋教）歌の注釈である。底本は定家自筆本（『冷泉家時雨亭叢書』）に拠り、歌番号は、『藤原定家全歌集（冷泉為臣編）』（国書刊行会、昭和四九（一九七四）年）に従った。新編国歌大観③、133拾遺愚草は、上_レの末に藤川百首（1501～1600）を入れているために、（ほほ）百番ずつずれている。（）内の番号は、新編国歌大観③133拾遺愚草の歌番号であり、〔 〕は他人の歌であることを示す。さらに歌の冒頭につく、①、②、③などの、丸入りの数字は、新編国歌大観第何巻に当たるかをあらわす。①、②、③は各々第一巻、第二巻、第三巻となる。なお注釈中の「全歌集」は、『訳注 藤原定家全歌集』（久保田淳著、河出書房新社。上巻は昭和六〇（一九八五）年、下巻は昭和六一（一九八六）年）のことである。【語注】の（歌）題は、『平安和歌歌題索引』（瞿麦会編、昭和六一（一九八六）年）に拠った。また表現においては、三代集の歌を重んじ、語の初出は後拾遺以降を考慮した。語の八代集の用例（数）は、『八代集総索引（和歌自立語篇）』（ひめまつ_レの会編、大学堂書店、昭和六三（一九八八）年）に拠り、十五例以下を基準とした。定家の、新古今などの勅撰集所収歌の注釈（名）は、煩雑となるので、略称を用いたが、拙著『藤原定家名歌注釈』の「凡例」を参照していただければ幸いである。さらに『歌枕索引』は、『平安和歌歌枕地名索引』（ひめまつ_レの会編、大学堂書店、昭和四七（一九七二）年）の略であり、『和歌文学大系』（明治書院）のシリーズは、上記の名称を省き、例えば、「明治・万代〇」などとした。そして、（貼紙）や、歌の本文の踊字の、（シ）、（シ）、（シ）については、原典尊重の立場から、もとのままとした。略称は以下の如くである。

『新古今歌人の研究』久保田淳著、東京大学出版会、昭和四八（一九七三）年…久保田・研究

『藤原定家研究〈増補版〉』安田章生著、至文堂、昭和五〇（一九七五）年…安田

『定家の歌一首』赤羽淑著、桜楓社、昭和五一（一九七六）年…赤羽一首

『藤原定家（日本詩人選11）』安東次男著、筑摩書房、昭和五二（一九七七）年…安東

『拾遺愚草古注（上）（中）』石川常彦校注、三弥井書店、昭和五八（一九八三）年、同六一（一九八六）年、その中の「拾遺愚草抄出聞書（C類注）」、「拾遺愚草不審」（上）、「拾遺愚草抄出聞書（D類注）」、「拾遺愚草摘抄」（以上（中））、なお未刊国文古註積大系7に、「拾遺愚草抄出聞書」（B類注）が収められている。順に〈抄出聞書（C）〉〈不審〉〈（D）〉〈摘（抄）〉〈抄出〉聞書（上・B）と略

『藤原定家の歌風』赤羽淑著、桜楓社、昭和六〇（一九八五）年…赤羽

『藤原定家研究』佐藤恒雄著、風間書房、平成一三（二〇〇一）年…佐藤研究

「新宮撰歌合〈建仁元年三月〉全注解稿（一）（五）」『大阪工業大学紀要（人文社会編）』五三～五六卷、二〇〇八～二〇一一年）、後『新宮撰歌合全釈』（歌合・定数歌全釈叢書十九、風間書房、平成二六（二〇一四）年）所収…奥野注
コレクシヨン日本歌人選011『藤原定家』村尾誠一著、笠間書院、平成二三（二〇一一）年…コレ